

区民提言書審議用資料( 章 まちの記憶の再生と環境の創造)

1. 現況と課題

(1) みどり、公園整備

みどり

■緑被面積は近年減少傾向にあり、緑被率も低下傾向にある。

■緑被面積のうち住宅・事業者等の用地が過半であることから、民間主体のみどりを守り育む取組が求められる。

公園

総面積、一人あたり面積とも他区と比較して高くなく、特に一人あたり面積は近年の人口増から減少傾向にある。

(2) 景観まちづくり

緑や水辺などの自然景観、高低差の大きい変化に富んだ地形、街並みや建造物などの歴史的景観、史跡など、豊富な景観資源を有している。

新宿区は変化の激しいまちであり、その変化のタイミングを捉えて魅力的な景観を創造するために景観まちづくり条例を制定し、景観事前協議を実施している。

(3) 文化

文化財

多数の指定・登録文化財や遺跡を有している。

(4) 観光

来訪者

来訪客以外も含めた新宿駅の乗降客数は平成15年度で約324万人と、他のターミナル駅より多い。

訪日外国人の来訪率は、男女とも新宿がトップである。

観光資源

新宿の観光資源として歴史・文化に関するもののほか、高層ビルや繁華街などが上げられる。

(5) 環境

ごみ、清掃

ごみ収集量は直近10年間で6割程度に減少したが、平成12年以降は減少傾向が緩やかに。

資源循環型社会

資源回収量は平成12年をピークに減少していたが、ここ2年は横ばいである。

公害・汚染

近年の公害に関する苦情受付件数は、騒音が半数程度を占めている。

地球温暖化

エネルギー消費量は産業部門が漸減の傾向にあるが、民生部門(業務)と運輸部門の増加が著しい。

2. 区民の意識・意向と提案

区民の意識・意向

(以下、「平成16年度区民意識調査」「平成17年度区民意識調査」)

区民の公園に対する要望:「明るく安全な場所にしてほしい」(62.8%)「清潔にしてほしい」(61.9%)

新宿区景観基本計画をまったく知らなかった区民が79.9%

景観づくりで区民が重要と考えていること:「みどりの豊かさ」(45.4%)、「電柱や電線地中化」(42.7%)

よりよい景観づくりのために区民が協力できること:「ペランダや玄関先に花などを置く」(42.7%)

区のイメージ向上に重要なこと:「特色あるみどり・水辺空間など潤い環境の整備」(42.6%)、「景観に配慮した街並みの形成」(39.6%)

居住地域の分野別の満足度:「騒音・大気汚染の対策」(満足:7.6%、不満:54.3%)、「みどりや水辺などをいかした都市空間」(満足:21.5%、不満:39.2%)

歴史や伝統文化で後世に伝えたいもの:「新宿御苑や外堀などの歴史あるみどり・水辺」(68.8%)、「歴史ある町名や坂道(神楽坂)とその風情」(62.1%)

歴史や伝統文化を発信し継承するのに必要なこと:「文化財や史跡の説明板・標柱などの拡充」(43.5%)、「テーマ別の文化財めぐりルート・マップの作成」(39.8%)

観光・産業振興のために力を入れるべきこと:「野外レクリエーションや自然に親しめる公園や遊歩道の整備」(32.6%)、「観光資源マップの作成」(26.3%)

区民の提案(区民会議提言)

<水辺と森の復活 1>

地形を活かした都市計画( )

新宿の“森”の再生 - 旧瀧邸を新宿の森へ( )

失われつつある水辺の再生、玉川上水の復活( )

大規模構築物の地下化への要請( )

みどりの風を感じるまちづくり、「水辺と森の環」( )

環境修復回復型ミティゲーション(代償)制度( )

<景観は区民共有の財産 2>

地域からの視点と発想による景観資源の調査、発掘( )

地区協議会を核とした地域の景観計画の策定( )

景観法の活用と地域と協働した景観施策の推進( )

身近な街並みの改善や整備( )

歴史的建造物等の保全・活用( )

再開発の歴史と伝統を生かしたまちづくり( )

超高層建築の計画とデザインなどに関するガイドラインづくり( )

<新しい才能・文化を常に吸収し続けるまち 3>

価値ある情報の流通を確立する文化情報ネットワークの構築( )

区内の芸術家・芸術団体の認定/登録制度と活動支援( )

空き店舗、廃校などの芸術目的への活用と民間施設の認定( )

次代の芸術家を誘致する国際芸術村構想( )

区民自身が表現者となり、新宿の文化を担う( )

こどもや青少年とアートとの接点の拡大( )

新たな産業、企業の苗床づくり( )

<歴史の中で結実したホンモノの文化を継承する 4>

文士村と漱石山房、紅葉、ハーン記念館創設( )

区民学芸員の養成と在野の専門家の活用( )

地域の歴史を発掘し、地域学から新宿学へと誘う( )

古典芸能ルネッサンス、「新古典」形式で試み味わう( )

界限を活かしたまちづくり - 「歴史地区」の制定文化、歴史の道、坂を活かしたまちづくり( )

文化・歴史の掘り起こしと発信、駅構内アートミュージアムの創設( )

いにしへの地名を将来に残し、それを観光資源にする( )

地場産業と居住の共存のまちづくり、地場産業の継承の支援( )

「アートのまち・新宿」を新宿ブランドの確立定着に活用する( )

<みどりとみず、太陽の豊かなまち 5>

魅力ある公園づくりの推進( )

街路樹に特色を持つ街路づくり( )

遊歩道の整備を促進( )

住宅地の生垣整備を促進、屋上緑化、壁面緑化の普及促進( )

水辺の空間の創出を促進( )

<人間本位の生活環境を重視したまち 6>

ゴミの落ちていないきれいなまちづくりの推進( )

安心して歩きたくなるまちづくりの推進( )

美しく潤いのあるまちづくりの推進( )

多文化・多様性の新しい環境対策の推進(あれもあり、これもあるまち)( )

<持続可能な資源循環型社会の構築 7>

拡大生産者責任の徹底( )

ゴミ減量目標値の設定と増強すべき施策、ごみ・資源の収集体制の見直し( )

啓発活動の推進、周知方法の工夫( )

再生品の普及( )

<地球温暖化の防止 8>

「新宿Ecoアクション」の作成、重点地区・テーマの設定、率先的取り組みの導入( )

環境教育の促進・拡充、情報共有のための情報発信・共有化の促進、( )

経済との融合 - 経済的な規制と誘導をく国・都との連携の下、実施する - ( )

23区の環境政策の連携強化( )

<Eco Eco (環境と経済の調和)に取り組むまち 9>

地域通貨(エコマネー)の導入( )

環境配慮評価制度の実施( )

グリーン入札制度の導入( )

<すべての人のみならず次世代が、心豊かに、安定的に生活の質を維持できる社会(「持続可能な社会」)をめざして 10>

江戸文化を参考にした「持続可能な社会」の具体的なイメージづくり( )

「持続可能な社会」実現のための活動や「子どもの参画」のための地域組織づくり( )

近隣地域の公園(ポケットパーク)を整備利用して「地域交流」の拠点にする( )

大切にしたい伝統文化を子どもたちに伝える( )

効率的な情報を提供するための情報統合化の推進( )

「持続可能な社会づくり」のための新宿区コミュニティ学館(仮称)の創設( )

地域の担い手・繋ぎ手の育成のための、学びの機会の提供( )

子どもたちが社会で学び、社会参画の意味を知る機会づくり( )

子どもも大人も持続可能な社会づくりについて学べる機会づくり( )

### 3. 区民提言書を踏まえた新しい計画における審議項目

#### 水辺と森の復活

- \* これまでの経済効率優先のまちづくりから人間性豊かで持続可能な社会を形成していくために、新宿を彩る豊かな森と水辺を再生し、森と水辺の美しい連続性を回復し残していく、地形を重視したまちづくりの必要性が指摘されている。

#### 景観は区民共有の財産

- \* 景観をそれぞれの地域が有する資源と捉え、総ての区民はその資源を活かし豊かな生活を享受する権利を持ち、同時に良好な景観を守り、育て、次世代に受け継ぐ努力をする必要性が指摘されている。
- \* 地域からの視点と発想により景観計画をつくり、区民と行政の協働により実施していく施策や歴史的建造物等の保全・活用についての施策が打ち出されている。

#### ホンモノの文化の継承と新しい才能・文化の吸収

- \* 歴史的背景を有する豊富な文化資源を見直し、区民共有の財産として親しみ、継承していく施策がうちだされている。また、これを観光などまちの活性化に生かす施策が打ち出されている。特に、歴史の中で培ってきた「ホンモノ」を見分ける力、それらを継承し発展させることの大切さや必要性が指摘されている。
- \* 伝統的な産業や文化を尊重しながらも、新しい才能や文化を呼び寄せ、活動の場を提供し、支援・育成することで、区民が享受者としてだけではなく、表現者として、また支援者として、新しい文化を生み出す施策が打ち出されている。

#### みどりと水、太陽の豊かなまち・人間本位の生活環境を重視したまち

- \* 魅力ある公園づくり、特色ある街路づくり、水辺空間の創出など、みどりと水の快適空間を保全・創造するための施策が打ち出されている。
- \* ゴミの落ちていない、安心して歩ける「人間本位の生活環境を重視したまち」を目指して、地域の美化活動等の対策が打ち出されている。

#### 持続可能な資源循環型社会の構築・地球温暖化防止・Eco-Eco（環境と経済の調和）に取り組むまち

- \* 環境への負荷を抑えた持続可能なシステムを目指し、区民・事業者・行政が連携し、3R<sup>注</sup>を推進していくための施策が打ち出されている。
- \* 京都議定書における温室効果ガス削減目標の達成等に向けて、区民・事業者・行政の協働による温暖化対策への取り組みと目標期間が提案されている。
- \* 区民・事業者・行政が地球環境への配慮に無理なく継続的に取り組めるよう、環境保全と経済性（Eco - Eco）が調和する仕組みが提案されている。

注）3R：Reduce、Reuse、Recycle

すべての人のみならず次世代が、心豊かに、安定的に生活の質を維持できる社会（「持続可能な社会」）をめざして

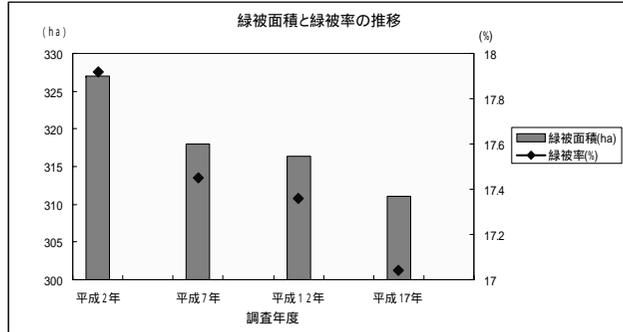
- \* 「持続可能な社会」づくりを目指していくことはもちろんのこと、それを担う人材づくりを、教育・子育ての目標として掲げるとともに、次世代の子ども達が主体的に参画できるような環境を用意しながら、よりよい社会づくりを進めていきたいと提言されている。

(1) みどり、公園整備

みどり

緑被面積、緑被率は年々低下している

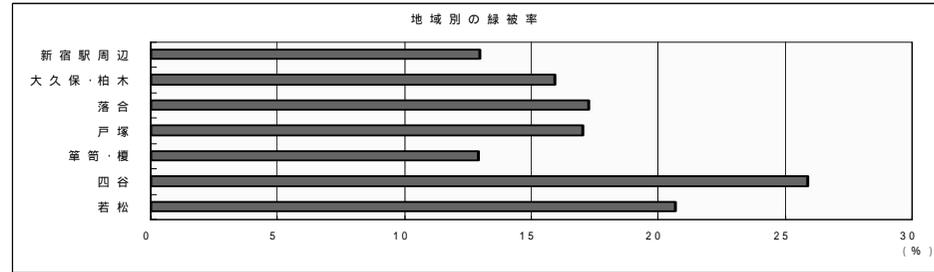
図3-1 緑被率の推移



	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
緑被面積 (ha)	327.03	318.04	316.39	310.99
緑被率 (%)	17.92	17.45	17.36	17.04

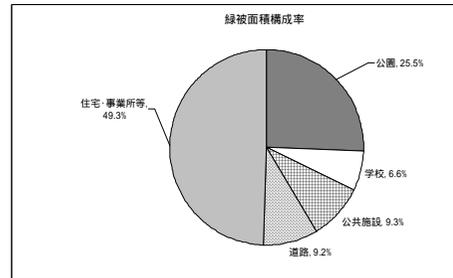
緑被面積・緑被率：航空写真によって上空から見たときのみどりに被われている土地の面積及び割合  
平成17年度データは平成2～12年と解析精度を合わせ9㎡以上の緑地を集計  
資料)「新宿区みどりの実態調査報告書(第3～6次)」より作成

図3-2 地域別の緑被率



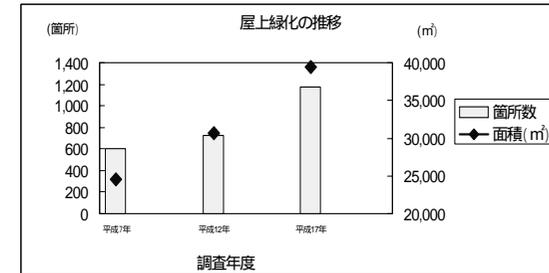
資料)「新宿区みどりの実態調査報告書(第6次)」(平成18年3月)より作成

図3-3 土地利用別緑被面積構成比



資料)「新宿区みどりの実態調査報告書(第6次)」(平成18年3月)より作成

図3-4 屋上緑化の推移

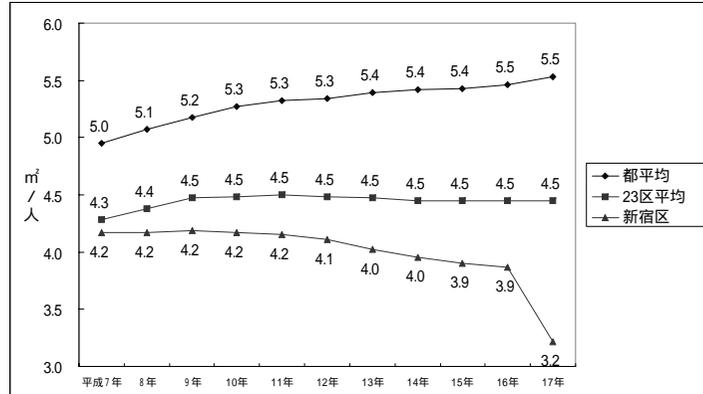


資料)「新宿区みどりの実態調査報告書(第4～6次)」より作成

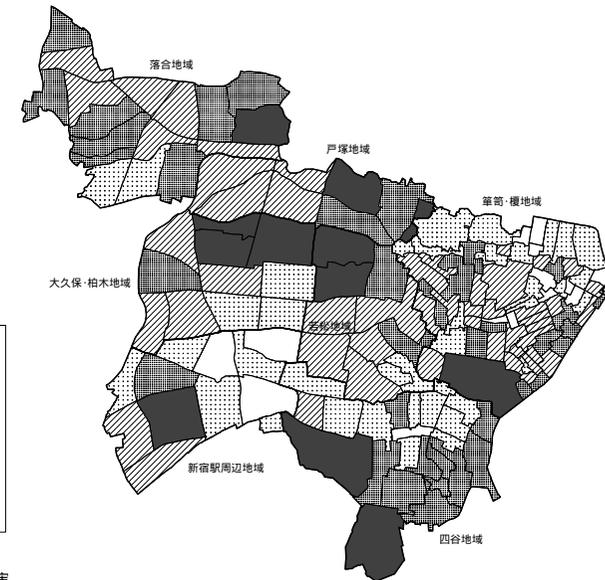
公園

新宿区の公園は、総面積、一人あたり面積とも他区と比較して高くなく、特に一人あたり面積は近年の人口増から減少傾向にある。

図3-6 区民一人あたり公園面積の推移

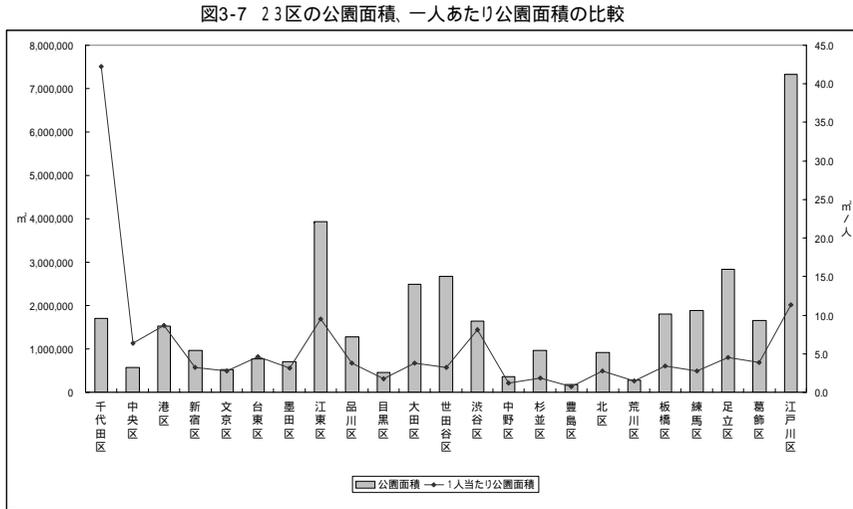


資料)財団法人特別区協議会「特別区の統計」(平成18年3月)より作成



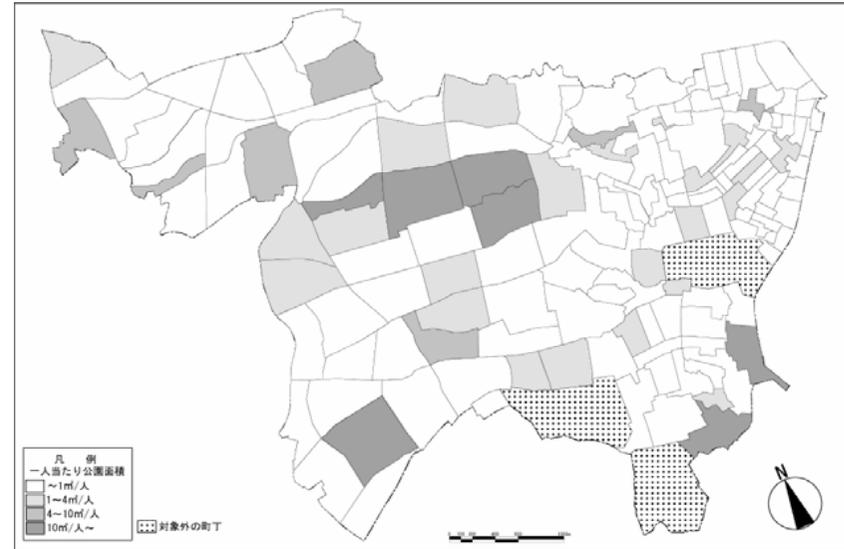
資料)「第5次新宿区みどりの実

公園（つづき）



資料)財団法人特別区協議会「特別区の統計」(平成18年3月)より作成

図3-8 町丁目別一人あたり公園面積

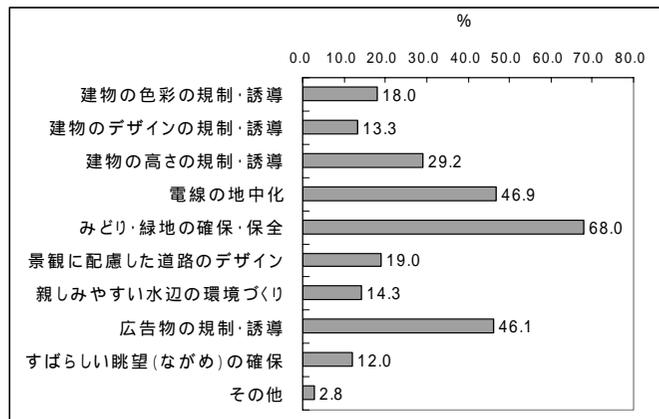


資料)「新宿区の土地利用2003」(平成15年3月)より作成

(2) 景観まちづくり

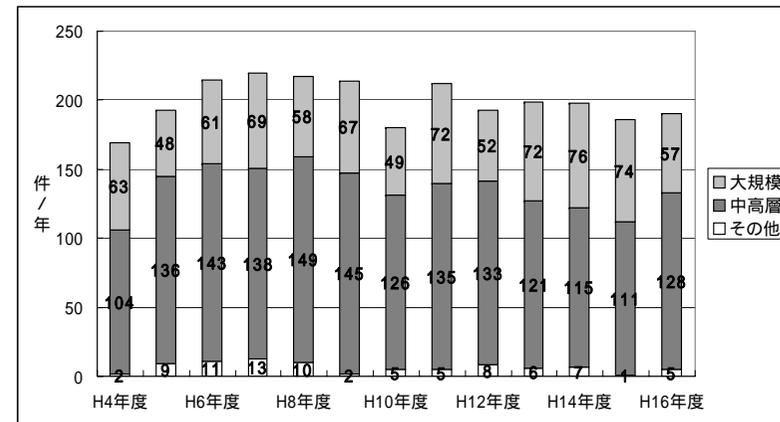
新宿区は変化の激しいまちであり、その変化のタイミングを捉えて魅力的な景観を創造するために景観まちづくり条例を制定し、景観事前協議を実施している。

図3-9 魅力的な景観にするための効果的な方法について



資料)「新宿区のまちづくりに関するアンケート結果」(平成17年度)より作成

図3-10 景観事前協議件数の推移



資料)新宿区資料より作成

(3) 文化

文化財

新宿区内には、国・都の指定文化財や区の指定・登録文化財が多数存在している。また、各時代の遺跡も多数確認されている。

表3-1 種別でみた文化財数

種別		該当する文化財の数	
国	史跡	指定	3
	重要文化財	指定	2(建造物2)
都	旧跡	指定	5
	史跡	指定	2
	有形文化財	指定	3 (古文書1、彫刻1、考古資料1)
	無形民俗文化財	指定	2
区	有形文化財	指定	39 (建造物2、絵画・彫刻・工芸品31、考古資料3、歴史資料4、古文書・古記録3)
		登録	24 (建造物1、絵画・彫刻・工芸品13、歴史資料7、古文書・古記録3)
	有形民俗文化財	指定	15
		登録	2
	無形民俗文化財	指定	5
		登録	2
	史跡	指定	30
	天然記念物	登録	10
	指定	3	

注)平成17年度現在  
資料)新宿区資料より作成

表3-2 各時代の遺跡数

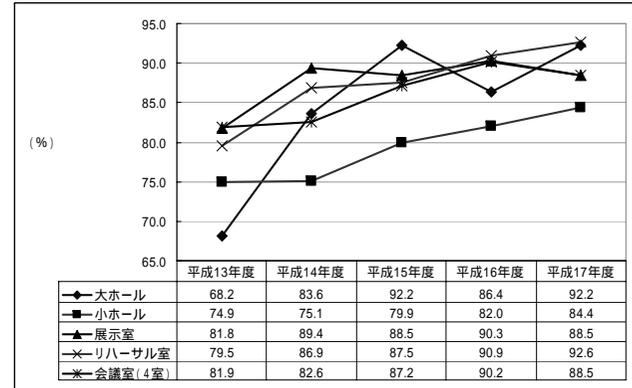
	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
旧石器時代	21	23	25	26	26
縄文	55	49	58	58	58
弥生	14	18	20	20	20
古墳	15	12	18	18	18
奈良	11	14	16	16	16
平安	5	13	16	16	16
中世	9	8	11	11	11
近世	112	109	108	110	111
遺跡総数	121	126	126	128	129

注)複合遺跡は重複カウント  
資料)「新宿区の概況」(平成17年8月)、その他新宿区資料より作成

文化活動

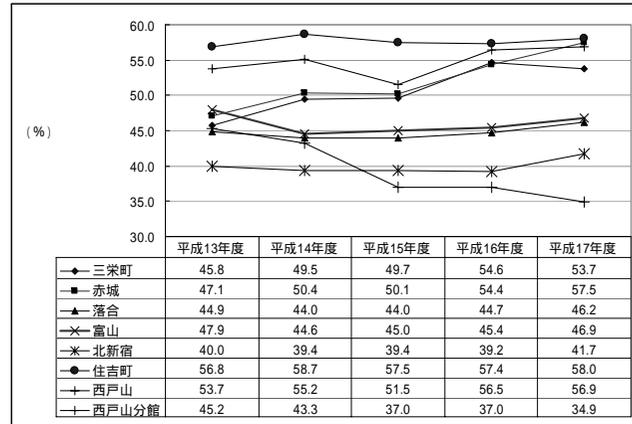
新宿文化センターの施設利用率は、平成13年度以降上昇傾向にある。

図3-11 新宿文化センターの施設別利用率の推移



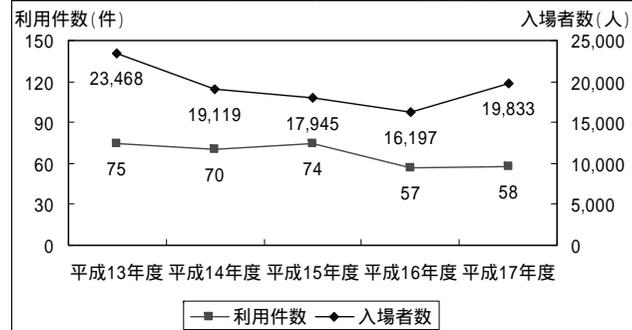
社会教育会館の利用率は概ね横ばい傾向にあるが、西戸山分館は減少傾向にある。

図3-12 社会教育会館の館別利用率の推移



区民ギャラリーの利用件数は、平成16年度を境に減少し、横ばいで推移している。入場者数は平成13年度以降減少傾向にあったが、平成17年度は増加に転じている。

図3-13 区民ギャラリーの利用状況



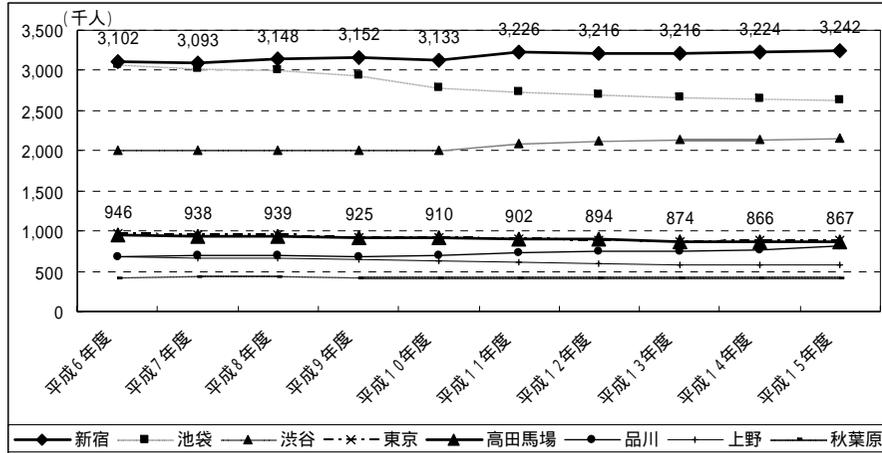
資料)ともに「新宿区の概況」(平成17年8月)より作成

(4) 観光

来訪者

観光客以外の来訪者も含めた新宿駅の乗降客数は他のターミナル駅よりも多く、平成15年度で約324万人である

図3-14 都心主要ターミナル駅の乗降客数の推移



資料) 株式会社エンタテインメントビジネス総合研究所「駅別乗降者数総覧」より作成

訪日外国人の訪問率で見ると、男女ともに新宿は24.3%でトップである。

表3-3 訪日外客の性別訪問率の順位

男性	訪問率 (%)	女性	訪問率 (%)
新宿	24.3	新宿	28.1
銀座	20.2	その他東京	21.5
その他東京	20.1	銀座	21.4
京都市	15.0	京都市	20.4
渋谷	10.8	浅草	16.6
六本木	10.8	渋谷	14.4
浅草	10.4	上野	11.0
名古屋	10.1	六本木	10.2
上野	9.2	東京ディズニーリゾート	10.0
品川	8.6	原宿	9.8

注) 訪問地は複数回答。また、訪日外客には、ビジネス目的も含まれる。  
 「その他東京」とは、浅草、上野、秋葉原、銀座、築地、皇居、原宿、明治神宮、渋谷、青山、恵比寿、池袋、新宿、品川、東京タワー、お台場、赤坂、六本木を除いた東京都内

資料) (独)国際観光振興機構「JNTO訪日外客訪問地調査平成16-平成17年(平成18年2月)」より作成

新宿の観光資源

新宿の観光資源として、歴史・文化に関するもののほか、新宿都庁などの高層ビル、歌舞伎町などの繁華街などがあげられる。

表3-4 新宿区の観光資源

落合周辺	高田馬場周辺	神楽坂周辺	新宿・大久保周辺	四谷周辺
おとめ山公園	亮朝院 金剛力士石像	神楽坂	策(むち)の井跡	市谷龜岡八幡宮
薬王院 板碑 ボタンの花	面影橋	善国寺 毘沙門天像	常円寺 便々館湖鯉鮒狂歌碑	外濠公園
佐伯公園	東京染ものがたり博物館(新宿ミ二博物館)	光照寺 諸国旅人供養碑	淀橋七地藏	四谷見附橋
自性院 板碑	甘泉園公園	宮城道雄記念館	超高層ビル街	新宿歴史博物館
寛谷御霊神社 カ石	水稲荷神社	尾崎紅葉旧居跡	都庁舎	新宿歴史博物館
哲学堂公園	早稲田大学 演劇博物館	筑士八幡神社 田村虎旧居跡	新宿中央公園	西迎寺
目白学園遺跡(新宿ミ二博物館)	大隈重信銅像	赤城神社	熊野神社(新宿ミ二博物館) 十二社碑 水鉢・七人役者図絵馬 式三番奉納額	全勝寺
中井御霊神社	大隈庭園	多聞院 松井須磨子の墓	成子地蔵	消防博物館
林美美子記念館	穴八幡神社 布袋像水鉢	浄輪寺 関孝和の墓	成子地蔵	大久保の犬御屋敷
染の里二葉苑(新宿ミ三博物館)	放生寺	夏目漱石終焉の地	成子天神社 力石 富士塚	島崎藤村旧居跡
月見岡八幡神社 谷文晁の絵 庚申塔 鱧口	戸山山荘跡	宗参寺 山鹿素行の墓 牛込氏の墓	圓照寺	愛染院 高松喜六の墓 塙保巳一の墓
西戸山遺跡碑	戸山公園 箱根山	来迎寺 古い郡名の残る庚申塔	鑑社 狍犬型庚申塔	須賀神社(新宿ミ二博物館) 三十六歌仙絵
落合橋	学習院旧正門	誓閑寺 古い郡名の残る梵鐘	金塚地蔵	宗福寺
庚申塔	諏訪神社	夏目漱石誕生の地碑	俳句文学館	本性寺
	玄国寺		皆中稲荷神社	田宮稲荷神社跡 四谷怪談の旧地
	つまみかんざし博物館(新宿ミ二博物館)			神宮外苑 聖徳記念絵画館
				一行院

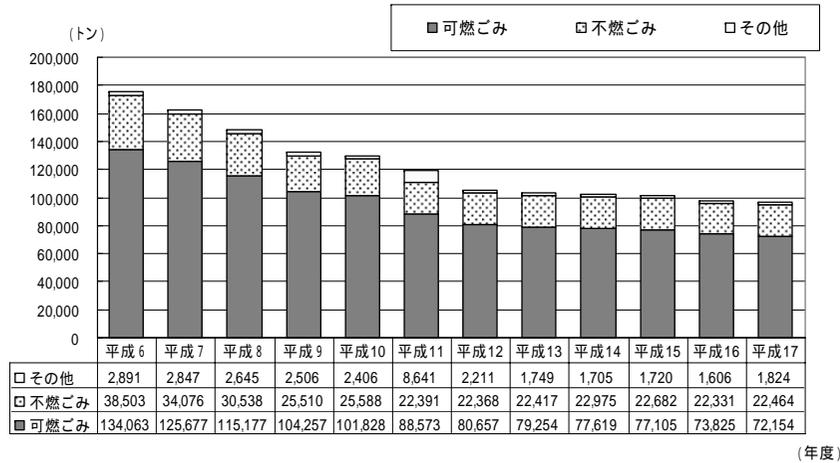
資料) 新宿区観光協会ウェブサイトより作成

(5) 環境

ごみ、清掃

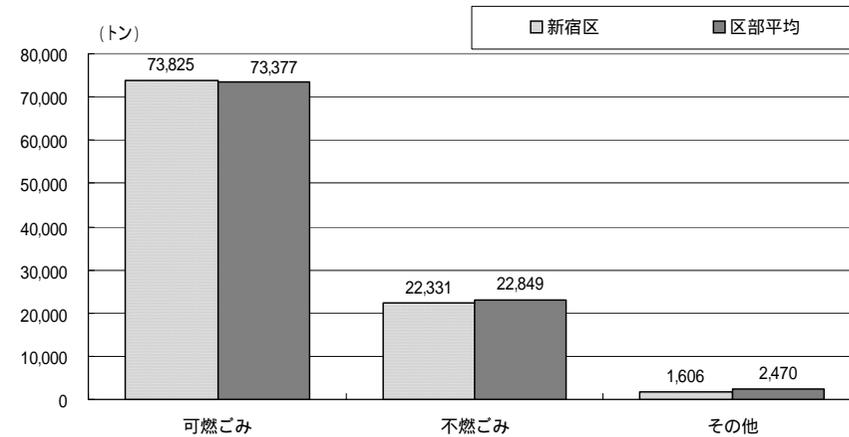
ごみ収集量は直近10年間で6割程度に減少したが、平成12年以降は減少傾向が緩やかに。

図3-15 新宿区におけるごみ収集量の推移



注釈)平成11年までは東京都によるごみ収集量を集計。  
資料)新宿区資料より作成

図3-16 ごみ収集量の対特別区比較 (平成16年)

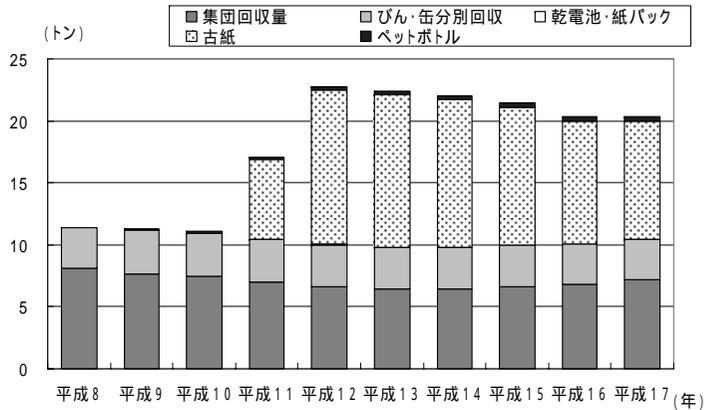


注釈)新宿区値は、清掃事務所区分「新宿」、「新宿東清掃センター」の合計値である。  
資料)財団法人特別区協議会「特別区の統計」(平成18年3月)より作成

資源循環型社会

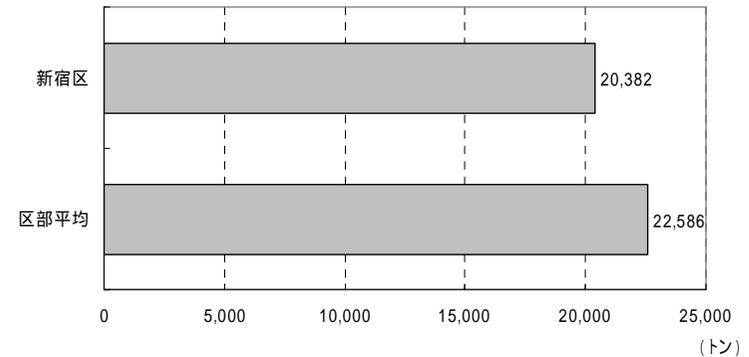
資源回収量は平成12年をピークに減少していたが、ここ2年は横ばいである。

図3-17 新宿区の資源回収量の推移



注釈)古紙の集積所回収は平成11年10月から実施、ペットボトルの店頭回収は平成9年4月より実施。平成17年度の数値は速報値  
資料)新宿区資源清掃対策室資料(平成18年6月)より作成

図3-18 資源回収量の対特別区比較 (平成16年度)



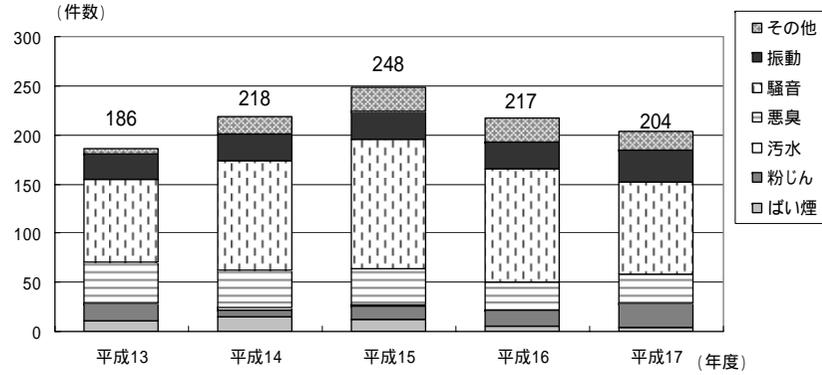
資料)新宿区資料より作成

(5) 環境

公害・汚染

近年の公害に関する苦情受付件数は、騒音が半数程度を占めている。

図3-19 公害に関する苦情受付件数

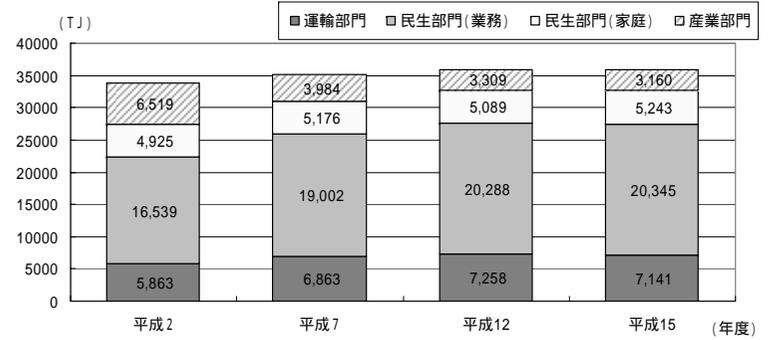


資料) 新宿区資料より作成

地球温暖化

エネルギー消費量は産業部門が漸減の傾向にあるが、民生部門(業務)と運輸部門の増加が著しい。

図3-20 部門別エネルギー消費量の推移



注釈) 産業部門の平成15年度データは統計データの制約から2001年度の数値で代替している  
資料) 新宿区資料より作成